

なべかけ



鍋掛公民館 家庭教育支援事業 第19号

【鍋掛公民館】

0287-60-1164

3月になり、まだ寒い日もありますが、春の訪れを感じられることが多くなってきます。お彼岸を過ぎた頃になると、いよいよ春になると喜びに似た気持ちに満ちてきます。春のお彼岸（春分の日とその前後3日、今年は3月18日から24日）といえば先祖供養があります。お供え物の1つとして、牡丹餅（ぼたもち）をイメージしますが、秋のお彼岸には牡丹餅とは呼ばず、御萩（おはぎ）と呼びますよね？
同じような物なのに呼び名が違うのはどうして？・・・



★呼び名の由来★

春は、この時期に咲く牡丹（ぼたん）の花にちなんで牡丹餅（ぼたもち）と呼び、丸い形状の大きめのもの。秋は萩の花にちなんで御萩（おはぎ）と呼び、細長い形状の小さめのもの。花の名前とは関係なく「餅をつかないで作られる」ことから名づけられています。ちなみに夏は、餅をつかない⇒いつ、つ（着）いたかわからない…夜に船がついても分からないことから⇒夜船（よふね）。冬は、餅をつかない⇒つき（月）知らず…北の方角には月が見えないことから⇒北窓（きたまど）と呼ばれるそうです。
春（ぼたもち）夏（よふね）秋（おはぎ）冬（きたまど）・・・四季にちなんで呼び名を変えるのは日本らしいですね。

＊春の「こしあん」と秋の「つぶあん」の違いはなぜ？＊

あんこの種類が違うのは小豆の収穫時期によるといわれています。一般的に、小豆の収穫時期は秋です。収穫したばかりの小豆は皮まで柔らかくおいしく食べられるから「つぶあん」で作ることができます。これに対し、春は保存していた小豆の皮が固くなってしまうことから、それを取り除いて「こしあん」として使うことが多いからなんだそうです。

※諸説ありますが、地域によってはゴマ・きな粉・青のり・くるみ・ずんだ・納豆をまぶす地域もあります。大きさの違いやもち米とうるち米の違いもあるようです。小豆を使う地域がある理由は、日本では古来から赤いものには魔除けの効果があると信じられていたからだそうです。

♪もうすぐ春休み♪



春休みは上の学年への進級や中学校へ進学する関係で宿題が少なめのため、本来なら「おでかけのベストシーズン」なのですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、そうも言っていないですね。でも「子どもたちには貴重なお休みを有意義に過ごしてほしい！！」そんな思いで、小学生の春休みの過ごし方について、いくつか考えてみました。

やること



- 規則正しい生活
- 学校の宿題

宿題をスムーズに終わらせるポイントは、12月発行の本紙第16号に記載しました（市のホームページからでも確認できます）。



↑
家庭教育通信の
ページ

余裕があるときはやってみよう！

- 復習（苦手を克服）
- 勉強机やおもちゃの整理（新学期の準備）
- 雑巾を縫う
- ご飯やお菓子を作る（子どもだけの時は火をつかわない方法）
- 家のお手伝いをする
- 読書（長編に挑戦！）
- お散歩（春を探す。鍋掛地区はあちこちに桜の木がありますよ♡）
- 縄跳び・工作・折り紙・塗り絵など

親子でコミュニケーションをとりながらやってみたいことを決めるのもいいですね。親御さんによっては「新学年の予習」と称してドリルなどをどんどんさせてしまうこともあるようですが、もう少し長い目で見ること必要かもしれません。



今年度の最終号になります。

少しでも家庭教育のヒントになってくれれば…という思いで、四季の行事、健康、子育てに関する情報などを掲載してまいりました。悩んでいるのはひとりではありません。同じような悩みを抱えた保護者はたくさんいます。「よかった、私だけじゃなかった。どこの家でも同じ悩みはあるんだ〜。」と気付くことができるように…。令和4年度の《家庭教育支援事業》では、少しでも不安を取り除くことができるような事業をしていきたいと思っております。皆様には様々な面でご心配やご負担をおかけしておりますが、ご理解、ご協力をいただき心より感謝申し上げます。新型コロナに対する配慮が欠かせない日々が続いておりますが、皆様のご健康をお祈り申し上げます。